

小田急沿線
自然ふれあい歩道

お散歩ガイド

柿生駅(麻生川)コース

里山の寺と麻生川の桜並木を訪ねて



[2009年12月1日更新]



ルート 合計約4.0km

メインルート 柿生駅 450m、柿生緑地 300m、修廣寺 1150m、葉積緑地 600m、麻生川 1500m、柿生駅

サブルート 葉積緑地 600m、五月台駅



凡例	
	メインルート
	サブルート
	道路
	鉄道
	高速道路
	川・池
	緑地
	畑
	公園・果樹園
	広場・運動場など
	水田・竹林など
	建物
	みどころ
	みどころポイント
	ワンポイント解説
	ビューポイント
	信号機
	カーブミラー
	神社
	寺
	看板・道標
	あずまや

柿生駅(麻生川)コース

里山の寺と麻生川の桜並木を訪ねて

コース詳細

1 柿生緑地



柿生緑地には雑木林、マダケ、モウソウチク、サクラやスギなどの川崎市の保存樹木があります。また、緑地に向かう切り通しには、関東ローム層の一つである多摩ローム層が露出しているのを見ることができます。多摩ローム層は20～40万年くらい前に八ヶ岳や箱根山が噴火したときにその灰が積もったもので、褐～灰褐色をしています。

4 修廣寺



山のお寺といった雰囲気を持つこの寺は、1520年に柿生から現在地に移されました。仁王門左手の古風な建物は開山堂兼衆寮といわれ、明治時代には村民の教育のために手習所として使われました。境内には典座和尚と道元禅師の銅像と大太鼓があり、本堂の裏には梅林があります。

6 歩道沿いの植物：ノハラアザミ



ノハラアザミは「ロゼットを持つ草」の一つで、冬から春までロゼットで生育し、初秋に茎を伸ばしピンクのかわいい丸い花を開花します。アザミは5月～8月に開花しますが、ノハラアザミの開花は8月～11月です。ロゼットとは、「小さなバラ」という意味で、風の影響を避けながら十分な光を受けられるように葉を地面にぴったりと貼り付けて冬越しする多年草の姿を言います。春に種子から発芽する一年草と比べると、有利に成長することができます。

メモ

ノハラアザミ：キク科の多年草／高さ50～100cm／8月～11月に紫紅色の花を開花

柿生駅(麻生川)コース

里山の寺と麻生川の桜並木を訪ねて



コース詳細

8 葉積緑地



区画整理事業で整備された住宅地の中にあり、造成前の雑木林をそのまま生かした約2haの緑地公園です。緑地内は平坦な広場や子供たちの遊具広場のほか、標高89mの小高い丘には、散策路や展望休憩所などが整備されています。

10 麻生川の桜並木と生き物



麻生川の両岸には、1969年に川崎市が護岸工事に併せて植えた250本の桜がしっかり育ち、今では約1.3kmの並木となっています。春には桜の花のトンネルとなり、多くの見物客でにぎわいます。また、コイやカルガモたちのかわいい姿を見かけることもできます。麻生川の源は麻生区の向原で、柿生駅の西で片平川と、その南で真光寺川と合流して、やがて鶴見川に流れ込みます。かんがい用水として重要で、その水を引くためにいくつもの堰があり、そこには水車が設置され、精米製粉に利用されていました。

11 道端の草花：シラン



麻生川沿いの歩道にシランが植栽されています。強健で乾燥にも耐えるランで、春から初夏にかけて可憐な紫色の花を咲かせます。その紫の花の色が和名となっています。また、地表直下に大きな塊茎（かいけい・パルブ）があり、昔から外傷薬として用いられてきました。

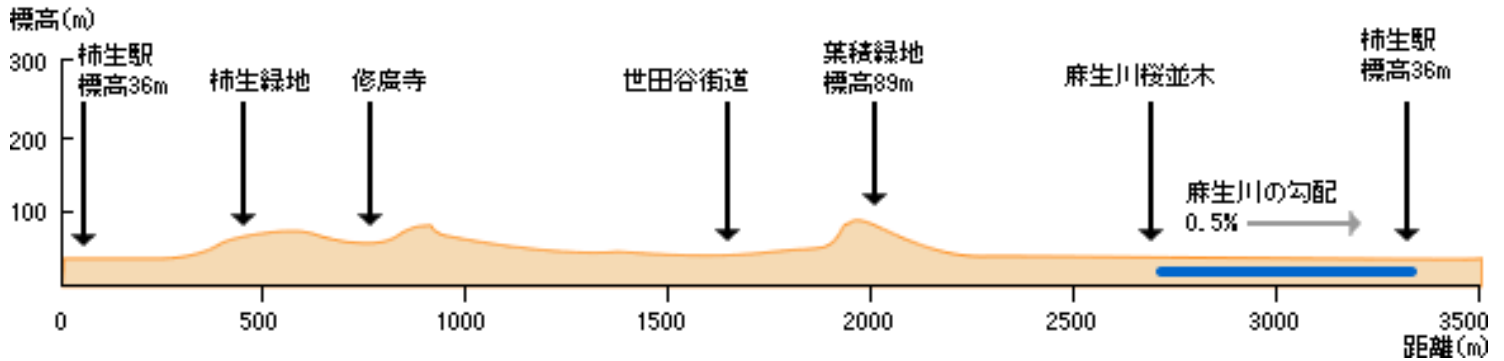
メモ

シラン：ラン科の多年草／草丈50cm／溪流付近や川岸の岩のすき間などに自生／花期は5月～6月で紅紫色の美しい花を開花

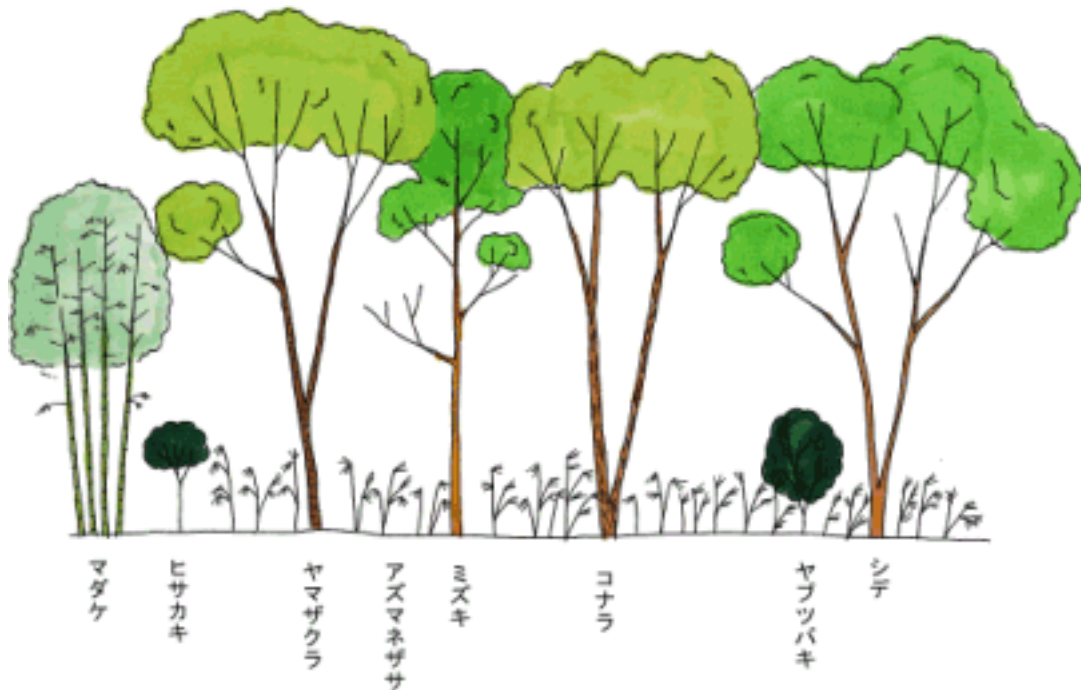
柿生駅(麻生川)コース

里山の寺と麻生川の桜並木を訪ねて

コースの地形断面図



柿生緑地の森林階層区分図



柿生駅(麻生川)コース

里山の寺と麻生川の桜並木を訪ねて



A large rectangular area for writing, featuring a top border of small circles and multiple horizontal dashed lines for text entry.